

# 2026 年度 大学院生命創薬科学専攻 博士課程(前期)シラバス

明治薬科大学大学院薬学研究科

# 目 次

## 【前期科目】

薬学総合講義	1
生命・研究倫理	2
生体分析化学特論	4
有機元素化学特論	5
生物活性天然物科学特論	6

## 【後期科目】

医薬品評価学特論	8
精密合成化学特論	10
感染症学特論	11

## 【通年科目】

学術論文総説講演 I	12
生命創薬科学課題研究 I	13

## 【自由選択科目】

就業体験学習	15
--------	----

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026 年度前期（必修科目）1 単位

科目名：薬学総合講義

## Introduction to Pharmaceutical Sciences

科目責任者：小林カオル

講義概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

大学院博士課程(前期)の学生としてそれぞれの研究を開始するにあたり、薬学における研究の意義、目的、および位置づけと方向性を正しく理解するために、薬学並びに関連領域の第一線で活躍されている専門家の講義を聴き、各分野の研究背景、現状と課題を把握する。さらに、小グループ討論を通して、講演内容の理解を深めるとともに、その分野の将来展望と解決すべき課題について討議し、得られた知見や感想を整理・共有化することにより、プレゼンテーション能力を向上させる。

対応するカリキュラムポリシー：CPI

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内容
1,2	三浦 ゆり	タンパク質バイオマーカーの開発：最先端医療を支える薬学基礎研究	標的タンパク質を的確に特定するためのバイオマーカーの開発を通して、最先端高度医療技術を支えるプロテオミクスの貢献について紹介する。
3,4	中井 啓陽	最新鋭の構造解析装置(3D ED/MicroED)を用いた低分子有機化合物の構造決定	IR、NMR、MS などの機器分析技術の開発は、有機合成化学に革新をもたらしてきた。近年、MicroED(微結晶の電子回折)による構造解析が注目され、今後の構造解析分野に変革をもたらすと予想される。本分析装置の測定原理を概説し、製薬業界での活用事例を紹介する。
5,6	長濱 徹	製薬会社の研究開発：一般用医薬品、医薬部外品、化粧品開発を中心に	一般の方が自ら手に取る製品の開発について、医療用医薬品開発とは異なる点、大事にしている点などを中心に開発事例を織り交ぜながら紹介する。
7,8	久世治朗	製薬会社における創薬トレンドとスタートアップ企業の現状	医薬品のモダリティ変化に対応した創薬の方向性および創薬スタートアップ企業の現状を紹介する。
9,10	安藤 幸治	CRO 業界の現状	CRO における現状について紹介するとともに、その取り巻く環境、CROで働くために必要なスキル等についても紹介する。

テキスト：配布プリント

参考書：必要に応じてそれぞれの授業担当者から紹介する。

準備学習(予習・復習)：特に必要はない。

成績評価の方法：講義時間内に実施する小テスト(100%)により総合的に評価する。

教員からメッセージ：

本格的な研究展開を開始するにあたり、薬学領域における具体的な研究課題を設定し、研究計画の立案、研究背景、実験の遂行など、現状と展望について正しく把握するための広範な知識を身につけることができる。本講義に参加することにより、セミナーや学会で研究成果を発表する際に必要となるノウハウを適切に把握することができる。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026 年度前期（必修科目）1 単位

科目名：生命・研究倫理

## Introduction of Bio & Research Ethics

科目責任者：小林カオル

講義概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

生命と密接に関連する薬学基礎応用研究活動に携わるものとして、社会的な信頼を遵守しつつ真理の探求と新たな知を創造することがとても大切である。これまで科学界では、不正行為が勃発するたびに研究者が公正に研究を進めることが繰り返し求められてきた。そこで、生命の尊厳と基本的人権の尊重を基幹とした生命・研究倫理の概要について学び、社会的に信頼される行動をとるための知識を習得する。

対応するカリキュラムポリシー：CP4

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	掛江 直子	生命・研究倫理概論	生命・研究倫理とは
2	掛江 直子	医療倫理概論	医療倫理とは
3	掛江 直子	科学技術の進歩と倫理	急速な科学技術の進歩により次々と出てくる新たな倫理的課題について考える
4	掛江 直子	医療技術の発展に伴う倫理的課題	医療技術の進歩に伴い新たに検討が必要となる倫理的問題について考える
5	掛江 直子	薬害及び科学技術の進歩と倫理	科学技術の表裏を理解し、薬害リスクを考える
6	掛江 直子	研究者に求められる倫理観	研究者としての専門職倫理を考える
7	紀 嘉浩	研究におけるバイアス	創薬研究における再現性の問題
8	紀 嘉浩	データ解析の基礎	研究に使用するデータ処理・統計処理
9	小林カオル	薬学研究者の立場からの研究倫理の実際	倫理的な薬学基礎研究とは
10	小林カオル /横屋正志	研究倫理 e-learning	Aprin

テキスト：必要に応じてプリントを配布する。

参考書：研究活動における不正行為への対応などに関するガイドライン

科学者の研究倫理:化学・ライフサイエンスを中心に 田中智之、小出隆規、安井裕之 著  
ISBN978-4-8079-0947-6、東京化学同人

準備学習(予習・復習):特に必要はないが、課題研究を進める際に、講義内容を振り返り、自身の研究が公正に進められているかを意識してほしい。

成績評価の方法： 講義時間内に実施する小テスト(100%)

課題などのフィードバック： 必要に応じて個別に対応する。

教員からメッセージ： 社会的に信頼の厚い研究者になるための行動規範を身につける。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026 年度前期（生命科学系科目 特論）（選択科目）1 単位

科目名：生体分析化学特論

Bio-Analytical Chemistry

科目責任者：小笠原 裕樹

講義概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

多様な疾患に対するバイオマーカーの分析と診断法に対する理解を深める。更に、バイオマーカーの測定から進展する治療と創薬への応用について理解する。

対応するカリキュラムポリシー： CPI

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	小笠原裕樹	酸化ストレス性疾患に対するバイオマーカーと診断法 (1)	酸化ストレスが関与する疾病について解説し、そのバイオマーカーを学ぶ。
2	小笠原裕樹	酸化ストレス性疾患に対するバイオマーカーと診断法 (2)	ストレス性疾患に対する診断バイオマーカーの測定法と原理を学ぶ。
3	小笠原裕樹	疾患発症に関わるバイオマーカーの発見と創薬への展開	バイオマーカーの解析に基づく創薬の可能性について学ぶ。
4	鈴木 俊宏	癌治療における遺伝子分析	癌化学療法を行う際に必要な遺伝子検査・診断、バイオマーカーについて学ぶ。
5	鈴木 俊宏	網羅的解析による個別化医療(1)	網羅的遺伝子解析による治療の個別化と 2 次治療への展開
6	鈴木 俊宏	網羅的解析による個別化医療(2)	網羅的遺伝子解析による新規治療薬の開発とビッグデータの活用
7	小池 伸	精神疾患とストレス(1)	精神疾患を引き起こすストレスについて、その原因と治療法について学ぶ。
8	小池 伸	精神疾患とストレス(2)	中枢性疾患とストレスに関する基礎研究について学ぶ。
9	月村 考宏	遺伝性難病のバイオマーカー	遺伝性難病であるライソゾーム病のバイオマーカーについて学ぶ。
10	月村 考宏	遺伝性難病の治療	遺伝性難病について、病態と治療法を学ぶ。

テキスト： プリント

参考書： ファブリー病 UpDate 編集 衛藤義勝、診断と治療社、2013.

準備学習(復習)： 講義後はノートをまとめながら、得られた知識を各自なりに検証、復習する(60 分程度)。

成績評価の方法： 課題等のレポート(100%)。

課題などのフィードバック： 講義や課題に関する質問等は、個別に受け付け解説、説明を行なう。オフィスアワーを利用して下さい。

教員からメッセージ： 様々な疾病に対し、その病態解析と診断に基づく知識を活かし創薬の可能性について学んで下さい。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026年度前期（創薬化学系科目 特論）（選択科目）1単位

科目名：有機元素化学特論

Organoelement Chemistry

科目責任者：齋藤 望

講義概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

有機合成において、ホウ素・硫黄・リンなどの典型元素と遷移金属元素がどのように活用されているかについて、および光化学反応の基礎と有機合成への応用について理解を深めることを目的とする。

対応するカリキュラムポリシー：CPI

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	田湯正法	有機典型元素化学 (1)	有機ホウ素化学の基礎と応用
2	田湯正法	有機典型元素化学 (2)	有機硫黄化学の基礎と応用
3	田湯正法	有機典型元素化学 (3)	有機リン化学の基礎と応用
4	田湯正法	光反応化学	光レドックス反応の基礎と応用
5	齋藤 望	遷移金属の化学 (1)	有機金属化学の基礎・パラジウム触媒反応
6	齋藤 望	遷移金属の化学 (2)	メタラサイクルを経る多重結合の反応 1
7	齋藤 望	遷移金属の化学 (3)	メタラサイクルを経る多重結合の反応 2
8	齋藤 望	遷移金属の化学 (4)	メタセシス反応 1
9	齋藤 望	遷移金属の化学 (5)	メタセシス反応 2
10	未定	有機元素化学	外部講師による特別講義

テキスト：プリント(板書)

参考書：ウォーレン有機化学(上・下) 野依・奥山・柴崎・檜山監訳(東京化学同人)  
野依・柴崎・鈴木・玉尾・中筋・奈良坂 大学院講義 有機化学 I(東京化学同人)  
有機光反応の化学 日本化学会編(化学同人)

準備学習(予習・復習)：参考書などを熟読し、講義に出席すること。受講後は、講義内容・配布された資料をよく復習すること(予習 40分・復習 40分)。

成績評価の方法：レポート(100%)

教員からメッセージ：講義内容を基に学習を深化させ、応用力を身につけてください。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026 年度前期（創薬化学系科目 特論）（選択科目）1 単位

科目名：生物活性天然物科学特論

## Bioactive Natural Products

科目責任者：高取（木下） 薫

講義概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

天然由来の化合物について、①起源生物と生理活性、②化合物の構造と生合成、③開発された医薬品とその薬効について理解する。

対応するカリキュラムポリシー：CPI

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	高取(木下) 薫	天然由来化合物1	天然物の生合成経路と薬につながる生体分子
2	高取(木下) 薫	天然由来化合物2	抗アレルギー薬、高脂血症治療薬
3	高取(木下) 薫	天然由来化合物3	抗真菌薬
4	高取(木下) 薫	天然由来化合物4	アルツハイマー病治療薬
5	高取(木下) 薫	天然由来化合物5	抗腫瘍活性化化合物
6	高取(木下) 薫	天然由来化合物6	天然由来の毒(マイコトキシンなど)、地衣類
7	高取(木下) 薫	生合成遺伝子1	生合成に関わる遺伝子
8	高取(木下) 薫	生合成遺伝子2	生合成遺伝子による化合物の人工創製
9	佐々木 寛朗	化合物の構造決定	微量天然有機化合物の構造決定
10	外部講師 日向須美子先生	エフェドリン除去した 麻黄湯 EFE の開発	麻黄湯のがん転移に関する研究から新規生薬エキス EFE の開発へ（仮）

1 から 8 の講義内容の順番は変わることがあります。

テキスト：プリント配布

参考書：天然医薬資源学 第4～6版 廣川書店 学部教科書として使用していたもの。

医薬品天然物化学 Paul M Dewick 著 海老塚豊 監訳 南江堂

準備学習(予習・復習)：授業で取り上げる医薬品について構造や作用などを調べ、まとめておく。

予習：自分の研究テーマに関係する化合物について、生物活性と生合成について調べる。

第1回～第9回は講義内容に沿った天然由来医薬品について復習する(各回30分以上)。

第2回～第7回は授業時間内に実施する各自の研究テーマのプレゼンテーションの準備を行う。

復習：第1回～第10回の各講義で紹介された化合物の由来、生合成、及び生物活性について簡潔にまとめる。毎授業の終わり(20分程度)にレポートを作成し、提出する。

成績評価の方法：講義中のプレゼンテーションおよびレポート(100%)

課題(レポート等)のフィードバック:講義や課題に関する質問を受付け、解説、説明します。授業時間内に講義内容に関するレポートを提出してもらい、後日コメントして返却することでフィードバックを行う。

教員からメッセージ: 天然由来の生物活性物質の構造と生合成に目をむけ、視野を広く持って自分の研究に役立ててほしいと思います。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026 年度後期（生命科学系科目 特論）（選択科目）1 単位

科目名：医薬品評価学特論

英語名 Drug Evaluation Science

科目責任者：赤沢 学

講義概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

医薬品の臨床開発並びに制度販売後調査等、医薬品開発に関わる制度や評価方法について学ぶ。

医薬品の臨床開発職等を目指すために必要な基礎知識を身につける。

対応するカリキュラムポリシー： CPI

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	植沢芳広	In silico 技術を用いた毒性・副作用解析①	副作用データベースおよび機械学習の基礎
2	植沢芳広	In silico 技術を用いた毒性・副作用解析②	
3	安 武夫	有効性と安全性を評価するための臨床検査値と医療機器	治験実施計画書に記載されている臨床検査値、医療機器や診断および有害事象・有効性を評価するための代表的なスケールについて学ぶ
4	安 武夫	診断・有害事象に用いるスケール	
5	前田英紀	医薬品開発における開発戦略の立案、治験計画について	医薬品の開発戦略の立案の仕方や臨床試験の企画、プロトコル（治験実施計画書）の作成の仕方について事例を交えて学ぶ
6	前田英紀	抗がん剤の臨床開発、プロトコル（他領域との比較をしながら）	抗がん剤の臨床開発について、その歴史、開発の進め方、他の治療領域との違いを学ぶ
7	酒井良子	疫学①	疫学概論
8	酒井良子	疫学②	医療ビッグデータを用いた臨床疫学研究の実例と手順について学ぶ
9	赤沢学	臨床研究デザイン①	臨床研究を計画立案する際に注意すべき内容、特に統計解析上の問題について実際の研究事例から学ぶ
10	赤沢学	臨床研究デザイン②	

テキスト：プリント

参考書：笹渕裕介ら それをしたらダメ！ NG事例から学ぶ臨床研究デザイン 金芳堂(2023)  
Leon Gordis訳 木原正博/木原雅子/加治正行 疫学 医学的研究と実践のサイエンス メディカル・サイエンス・インターナショナル(2010)

準備学習(予習・復習)：MY-CASTにアップされた講義資料等をあらかじめ確認する(60分)。

講義資料等を再度確認し、疑問点があれば講義担当者に直接連絡して確認する(30分)。

成績評価の方法： 課題に対するレポートの提出数とその内容(100%)で評価する。

課題(レポート等)のフィードバック： 講義担当者から出された課題の中から少なくとも 1 つを選んで提出する(最大 5 つ提出)。その内容について個別にフィードバックを行う。

教員からメッセージ： 製薬企業等の開発やデータサイエンス職を目指す学生には必須の学問です。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026 年度後期（創薬化学系科目 特論）（選択科目）1 単位

科目名：精密合成化学特論

Synthetic Organic Chemistry

科目責任者：高取和彦

講義概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

炭素骨格構築法と立体化学の制御に関する基礎的な考え方と、その合成化学的な応用法を概説する。より高度で実践的な生物活性物質の創製を具現できる力量ある合成化学の知識を習得する。

対応するカリキュラムポリシー：CPI

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	高取 和彦	立体選択的反応の基礎	立体選択的反応の基礎
2	高取 和彦	エノラートの化学 (1)	エノラートの生成とその反応 (1)
3	高取 和彦	エノラートの化学 (2)	エノラートの生成とその反応 (2)
4	高取 和彦	キラル合成素子の利用	キラル合成素子を用いた合成
5	松永 和磨	ラジカル反応の化学 (1)	ラジカル反応の基礎
6	松永 和磨	ラジカル反応の化学 (2)	ラジカル反応を用いた合成
7	高取 和彦	環状化合物の合成 (1)	付加環化反応の利用、アニユレーション反応
8	高取 和彦	環状化合物の合成 (2)	中大員環化合物の合成
9	高取 和彦	転位反応の化学	各種転位反応による合成
10	未定	未定	特別講義

テキスト：特に指定しません。プリントなどを使用。

参考書：大学院講義有機化学 I, II (東京化学同人)、編集：野依良治、柴崎正勝、鈴木啓介、玉尾皓平、中筋一弘、奈良坂紘一  
大学院有機化学 中 (講談社)、編集：岩村 秀、野依良治、中井 武、北川 勲  
有機合成化学(東京化学同人)、編集：檜山為次郎、大嶋幸一郎

準備学習(予習・復習)：授業前に講義資料をみて講義内容を確認すること(15分)。授業後に講義資料を読み直し知識を整理すること(30分)。

成績評価の方法：課題(30%)とレポート(70%)で総合評価を行う。

課題のフィードバック：講義や課題に関する質問等を個別に受け付け、解説する。

教員からメッセージ：4 年生までの講義では詳しく扱っていない立体選択的な反応を中心に、種々の炭素骨格を構築する方法について学習します。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026年度後期（生命科学系科目 特論）（選択科目）1単位

科目名：感染症学特論

Infectious disease

科目責任者：杉田 隆

講義概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

細菌感染症、真菌感染症、ウイルス感染症や薬剤耐性菌を題材として、感染症制御に必要な生命創薬科学の基礎知識を習得する。

対応するカリキュラムポリシー：CPI

講義計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	森田 雄二	薬剤耐性細菌感染症(1)	薬剤耐性(AMR)の概要
2	森田 雄二	薬剤耐性細菌感染症(2)	緑膿菌などグラム陰性桿菌の薬剤耐性
3	鴨志田 剛	薬剤耐性細菌感染症(3)	基礎と臨床の視点からみる感染症研究
4	鴨志田 剛	薬剤耐性細菌感染症(4)	薬剤耐性菌・感染症研究を創薬へ
5	松本 靖彦	微生物の環境適応 (1)	感染症の制御における微生物の利用
6	松本 靖彦	微生物の環境適応 (2)	微生物の病原因子を標的とした抗感染症薬
7	倉門 早苗	微生物の環境適応 (3)	バイオフィルム感染症
8	倉門 早苗	微生物の環境適応 (4)	海外での微生物研究の動向
9	杉田 隆	マイクロバイーム	ヒトマイクロバイームと疾患/健康の関係
10	杉田 隆	感染症対策の現状	外部講師による特別講義

テキスト：プリント

参考書：薬科微生物学(第7版)、

準備学習(予習・復習)：これまで学んできた微生物や感染症に関連する科目の内容を復習する(30分)。

成績評価の方法：レポート(100%)で総合評価を行う。

課題(レポート等)のフィードバック：講義や課題に関する質問等を個別に受け付け、解説・説明をする。

教員からメッセージ：生命科学や創薬科学の面から感染制御に貢献するにはどうすれば良いか一緒に考えましょう。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026 年度（必修科目）2 単位

科目名：学術論文総説講演 I

Lecture training of scientific review article I

科目責任者：横屋 正志

演習概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

一流の国際的専門誌に掲載された最近の優れた英文学術論文を題材として、研究の目的、背景、実験の方法、考察などを通して、論文調査能力、読解力、プレゼンテーション技能を養成し、今後の研究成果報告に必要となる素養と技能を養う。

対応するカリキュラムポリシー：CP3

演習計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1～10	所属研究室 の指導教員	個別に設定する	専門分野の英文学術論文を熟読後、参照文献並びに関連資料を整理して、内容をまとめ、プレゼンテーションに必要な資料の作成を行う。この間、まとめ方、発表態度、質疑応答の仕方などについて適切な指導を行う。また、第一線で活躍する学外研究者を招聘し、特別講演会を開催し、関連課題レポートの提出により研究成果の公開に必要な能力と技法の修得につとめる。

テキスト：指導教員の助言のもとに選定した英文学術論文

参考書：

「リーディング 科学英語 早く正確に読みこなすコツ」小沢 昭弥・山下 正通・長 哲郎 著、化学同人

「学会発表の上手な準備」森川 陽・大島 一郎・高橋 孝志 著、講談社

「学会プレゼン新技術」高橋 良治・中嶋 秀夫・小松 一祐 著、日本医事新報社

準備学習(予習・復習)：

予習：報告されている最近の英文学術論文の中から特に興味をもったものを選び出し、総説講演までにそれを選んだ理由を担当教員に説明する。また学内外で開催される特別講演会や学会に積極的に参加し、優れたプレゼンテーションの実例に触れる。

復習：担当した総説講演で指摘された箇所(発表内容、レジюме作成、プレゼンテーション方法など)について修正・改善し、次回の総説講演や研究成果報告などに役立てる。

課題などのフィードバック：毎回の発表会において質疑応答形式で実施する。

成績評価の方法：論文調査能力、読解力、プレゼンテーション技能を課題レポートの内容(100%)で総合的に判定し、評価する。

なお、担当した総説講演(10回分)のリストを所定の「学術論文総説講演 I 実施報告書」に作成し、担当教員の確認を得て、代表的なレジюме(5回分)とともに教務課大学院係に提出する。

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026年度（必修科目）21単位

科目名：生命創薬科学課題研究 I

Themed Research of Life and Pharmaceutical Sciences I

科目責任者：横屋正志

担当教員名：赤沢 学、植沢芳広、大野恵子、小笠原裕樹、蒲生修治、紀 嘉浩、櫛山暁史、小林カオル、紺谷圈二、齋藤 望、杉田 隆、杉山重夫、鈴木立紀、鈴木俊宏、高取 薫、高取和彦、中館和彦、長浜正巳、服部研之、花田和彦、原田 努、深水啓朗、前田英紀、森田雄二、安 武夫、山口憲孝、泉川桂一、小川泰弘、酒井良子、野澤玲子、野地匡裕、馬場正樹、林 賢、樋口和宏、松本靖彦、横屋正志

研究概要：

研究室に所属し、指導教員による研究指導を受ける。創薬化学コースでは、様々な生命現象を科学的視点でとらえ、創薬研究展開の可能性を多面的に探求する。生命科学コースでは、分子レベルの病態機能解析などから治療薬の分子標的を探る。各研究室の研究内容は大学院要覧を参照する。

対応するカリキュラムポリシー： CP2

到達目標：

1. 生命科学・創薬化学・医療科学の分野全体に関する基礎的な知識と自身の研究課題に関する専門知識を修得している。
2. 専門分野に応じた研究実施能力や問題解決能力を修得している。
3. 柔軟な思考能力によって自ら新しい課題を見出す能力を修得している。
4. 科学者としての高い倫理観、責任感および使命感を身につけている。

成績評価の方法： 目標到達度をルーブリックに基づき総合的に評価する(100%)。

その他：指導教員より研究計画書を受け取り、その内容を理解した上で、1年次5月に教務課へ提出する。生命創薬科学課題研究 I の成果は、修士論文としてまとめる。2年次2月に修士論文発表会を行う。

生命創薬科学課題研究 I のルーブリック評価表 生命創薬科学専攻 博士課程（前期）

区分	領域	項目	評価基準				レベル0	対応するDP
			レベル4	レベル3	レベル2	レベル1		
知識	基礎的知識・専門知識	自分の専門分野に関連する高度で最先端の研究動向に精通している	自分の専門分野に関する最先端の知識を完全に把握している	自分の専門分野に関する最先端の知識をおおむね把握している	自分の専門分野に関する最先端の知識を最低限把握している	自分の専門分野に関する最先端の知識の把握に努めている	DP-1	
		生命科学・創薬科学・医療科学の分野全体に関する基礎的知識を習得している	自分の専門性を高めるため、非専門分野の知識を完全に把握している	自分の専門性を高めるため、非専門分野の知識を活かす努力を積極的に行っている	自分の専門性を高めるため、非専門分野の知識を最低限把握している	自分の専門性を高めるため、非専門分野の知識の把握に努めている	DP-1	
		自分自身の研究課題について、適宜に情報収集し研究実施計画を立て、実行することができる	自分の研究に関する情報を関連分野も含めて幅広く収集・整理・評価したうえで、課題・問題について必要なデータや研究方法を適切に判別し、提案している。	自分の研究に直接関係する先行研究だけでなく、関連分野の研究の情報についても収集・整理・評価したうえで、適切な研究方法を提案している。	自分の研究に関する先行研究の情報について収集・整理し、必要な研究方法を提案している。	自分の研究に関する先行研究の情報について収集・整理している。	DP-2, 3	
技能	研究力・論理的思考力	他者との対話を通じて研究に関する議論を行うことができる	指導教員や学生どうしだけでなく、他の教員とも積極的に議論している	指導教員だけでなく学生どうしでも積極的に議論し、専門性の向上に大いに努めている	指導教員との議論をおこない、専門性の向上に努めている	指導教員との議論をおこない、専門性の向上に努めている	DP-2, 3	
		研究成果をレジュメ、論文、プレゼン資料（プロダクト）等の文書としてまとめることができる	研究で得られた結果を適切に分析・考察し、学芸誌や学芸報告など学外での発表に対応可能なプロダクトを作成している。	研究で得られた結果を適切に分析・考察し、学内で十分認められる水準のプロダクトを作成している。	研究で得られた結果に基づいてプロダクトを作成している。	研究で得られた結果に基づいてプロダクトを作成している。	DP-2, 3	
		研究室内の発表や報告会を含め、他者に対して自分自身の研究成果を発表し、適切に討論することができる	当該分野の第一線の研究者が集まる学術集会等において、適切に発表ならびに質疑応答を行うとともに、他の演者の発表についても適切に質問し、十分に議論を交わすことができる。	発表の内容と意義が伝わるよう、原稿なしでわかりやすく効果的なプレゼンテーションを行なうとともに、質疑に適切に対応している。また、他人の発表に対して的確な質問をしている。	発表の内容と意義が伝わるよう、わかりやすく効果的なプレゼンテーションを行なう工夫をしている。また、他人の発表内容に関心をもち、質問しように努めている。	発表の内容と意義が伝わるよう、わかりやすく効果的なプレゼンテーションを行なう工夫をしている。また、他人の発表内容に関心をもち、質問しように努めている。	DP-2, 3	
態度	人間性・倫理観	薬学研究が社会に与える影響を理解し、薬学研究者として遵守すべき倫理観を身につけている。	自分の研究に係る法令、指針、さらには個人情報保護をはじめとした取扱いに配慮すべき事項について、これらを遵守して研究に取り組んでいる。	自分の研究に係る法令、指針、さらには個人情報保護をはじめとした取扱いに配慮すべき事項について遵守している。	自分の研究に係る法令、指針、さらには個人情報保護をはじめとした取扱いに配慮すべき事項について遵守している。	自分の研究に係る法令、指針、さらには個人情報保護をはじめとした取扱いに配慮すべき事項について関心を示している。	DP-4	

標準レベル  
(卒業時に到達しておくべきレベル)

# 明治薬科大学大学院 生命創薬科学専攻シラバス

2026年度（自由選択科目）1単位

科目名：就業体験学習

Internship

科目責任者：小林 カオル

担当教員：進路就職委員長

実習(研修)概要(学問分野、主たる講義項目)と到達目標：

将来就くことになる職業の適性について熟考する機会として、研修先での体験を通して、社会人としての一般的常識や態度を身につける。

実習(研修)計画：

回数	担当者	テーマ	内 容
1	未定	ガイダンス	就業体験学習の目的について
2	学外講師	業界展望	業界の動向と職種
3	学外講師	事前研修	ビジネスマナー、コミュニケーション、守秘事項など
4～9	研修先	就業体験学習(インターンシップ)	研修
10	未定	まとめ	研修内容、感想などをまとめて報告

テキスト：配布プリント

参考書：必要に応じて選定する。

準備学習(予習・復習)：興味がある職種・企業についてあらかじめ調べておくこと。不明確な点は、積極的に実習中に質問し、情報を正しく整理して自らのモチベーションを高めておく。実習の経験を生かし、最終的な進路決定に繋げる。

成績評価の方法：出席状況、研修先評価、報告内容などを参考にして総合評価する(100%)。

教員からのメッセージ：大学院生であることを忘れずに、就職活動とのバランスを大切に行動しよう。



